大宮まちまち新聞

Vol.017
2023年12月1日発行
OMIYA LIBRARY

大宮20景

デッキで結ぶソニックシティ、鐘塚公園、そしてビル群

登場人物
さくらさん：入社3年目、今回の進行役
みかんさん：新人だけどやる気100%
ナポリさん：地域担当ベテランスタッフ

現在、大規模開発が進められている大宮駅西口一帯は、日頃訪れることが多い場所ですが、まだまだ知らないことがありそう。秋晴れの爽やかな陽気の中、探索に出かけました。

さくらさん：さあ、大宮駅西口にやってきました！

みかんさん：デッキは人通りが多くて活気がありますね！華やかなビルが林立していて、これぞ大宮という景色。

ナポリさん：かつての西口は東口に対して大きな建物はほとんどなかったんだよ。

みかん：想像できないなぁ。

ナポリ：昭和57年の新幹線開業にあわせて急ピッチで開発されて、次々に商業施設ができたんだ。ここも当時は日本一長いデッキとして街の顔だったんだよ。そして現在、西口は再開発が進行中で、大きく変わろうとしているんだ。

さくら：そういえば、東口もやってますよね。開発。

ナポリ：「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」のことだね。概ね20年のスケジュールが示されているよ。

みかん：西口はいつ頃完成する予定ですか？

ナポリ：「第3地区」と呼ばれる桜木町エリアの一部は令和6年に完成する予定だって。

みかん：それは楽しみ。

さくら：あ、ソニックシティが見えてきました。31階建てのひときわ目立つ施設はまさに大宮のシンボル的存在ですね。

みかん：地上に降りることなくデッキで行けるのは便利！

さくら：でも今日はデッキを降りてみます。

みかん：降りちゃうんだ。

↑大宮駅中央連絡通路まめの木脇にあるおすすめスポットの看板

→白井助七翁の像

さくら：駅から50mほどで鐘塚(かねつか)公園に着きました。

みかん：広い公園ですね。ベンチもあってビジネスマンの憩いの場という感じ。

さくら：真ん中にあるのは白井助七(しらいすけしち)の胸像ですね。

ナポリ：白井助七は、大宮駅の開業に尽力した人だよ。明治16年に上野―熊谷間に鉄道が開通した時、大宮に駅はまだなくて、自身の土地や資材を提供して大宮駅や日本鉄道大宮工場の開設などを行い、「鉄道のまち大宮」としての礎を築いたんだ。

さくら：そういえば、大宮図書館に隣接する山丸公園に記念碑がありますね。

みかん：SLもあります！そういうつながりがあるんだ。

さくら：ところで、ここはかつて庚申(こうしん)公園という名前だったみたいですね。

ナポリ：そう、名前の通り庚申神社が祀(まつ)られていたんだ。

みかん：その神社、今は？

ナポリ：移転したんだよ。ここから近いので行ってみよう。

さくら：5分程で到着しましたね。

みかん：思ったより立派な佇まい。

ナポリ：まずは大宮の発展を祈願しましょう。
―一同「二礼」二拍手一礼―

さくら：庚申神社の由来が記されていますよ。

みかん：へぇ。三重県伊勢市の猿田彦神社が本宮で、みちひらきの神、幸運の神、商売繁盛の神、豊穣の神が祀られているのかぁ。

さくら：明治の初め頃に大宮駅構内に祠(ほこら)が建てられて、転々としながら昭和60年に今の場所に落ちついたんですね。

ナポリ：今では桜木町の氏神として親しまれているよ。

さくら：それではいよいよ再開発地の見学に行きましょうか。

みかん：待ってました！

たくさんの絵馬が掛けられています

さくら：ここが建設現場ですね。

ナポリ：「大宮駅西口第3―B地区」だよ。

みかん：高いビル！

ナポリ：「大宮駅西口第3地区」は5つのエリアに分けられ、それぞれ再開発が進んでいるんだ。ここで建設中の「大宮サクラスクエア」は2つの棟からなる複合施設で、商業施設や住宅が入る予定なんだって。

さくら：街の景色もがらりと変わるでしょうね。

みかん：改めて完成が楽しみ。

さくら：今日は大宮駅西口の過去・現在・未来を見ることが出来ました。

みかん：街が変化していく様を見るって面白いんですね。

ナポリ：じゃあ、早速戻って取材内容をまとめよう！

さくらとみかん：はーい……

参考
『竣功記念誌 大宮駅前西口地区土地区画整理事業・大宮駅西口第二土地区画整理事業』大宮市／著 大宮市／出版 1991年
さいたま市／大宮駅西口第3-B地区第一種市街地再開発事業 https://www.city.saitama.jp/001/010/015/004/008/index.html

ゆかりの文学コーナー

『Bの戦場 さいたま新都心ブライダル課の攻防』

さいたま新都心駅が開業して20数年、多くのイベント会場になっているさいたまスーパーアリーナをはじめ、なんだか長いなぁと感じていた「さいたま新都心」という地名も、すっかり馴染んだように思います。

新都心周辺は、よくドラマなどの撮影で使われると耳にしますが、探してみたところまさにタイトルに町の名前がついた小説がありました！

今回ご紹介する『Bの戦場 さいたま新都心ブライダル課の攻防』は、タイトルにもある通り、新都心駅周辺が舞台の小説です。

「物心ついた頃から、わたしはブスだった。」そんな一文からこの小説は始まります。

結婚式という夢の舞台に憧れていた主人公の香澄(かすみ)は、自分が結婚できないのであれば、誰かの結婚を演出する側になろうとルミエ新都心ホテルでウェディングプランナーとして働きます。

ある日、転任してきたばかりの凄腕美形の上司・久世(くぜ)に、あなたのような絶世のブスを探していた！と求婚(？)され…（久世は、ブサイクが好きなブス専だったのでした）。一癖あるお客様や変わり者の上司、仲間に囲まれ香澄は仕事に恋(？)に奔走します。物語内では設定上「ブス」という単語が多く連発されますが、香澄の前向きな性格のせいか、さほど嫌悪を感じません。仕事や人に対する丁寧な姿勢に明るい気持ちにさせられます。

舞台となるルミエ新都心ホテルは架空のホテルですが、北与野デッキや埼京線の利用など身近に感じられる描写が多く、コメディー調なこともあって読みやすいです。よそ者をはねつけることなく受け入れてくれる平仮名の響きが優しい、など地方出身の香澄視点で語られるさいたまが新鮮でもあります。

著者は、ほかにも埼玉が舞台の小説を書いているそうです。他の作品も気になりますが、ひとまず痛快なお仕事小説で、気楽に読めるラブコメ『Bの戦場』シリーズ全6巻から挑戦してみることをおススメします！

取り扱った本
『Bの戦場 さいたま新都心ブライダル課の攻防』
ゆきた志旗 集英社 2016年

大西民子の一首

地に届くばかりの氷柱冴ゆるといふ
帰り住めとは言ひ来ずなりぬ

『無数の耳』より

故郷の岩手では、もう地に届くほどになった氷柱が冴えわたっているらしい。そう聞いた民子は、ふるさとを懐かしく思うと同時に、「帰っておいで」と温かく言ってくれる人もいなくなってしまったと、淋しさを込め詠んでいます。

おおみや読書バトン

第12回 テーマ『手紙』

先日、親しい友人のお母さまが亡くなられた。棺の中に色とりどりの花々と、結婚前お父さまがお母さまに宛てたラブレターも一緒に収めたという素敵な、そしてなんとも羨ましい話を聞いた。「ラブレター」。今ではメールやLINEが台頭するようになり、ラブレターはもはや死語になりつつあるかも知れない。ラブレターのみならず手紙を書くことすら、今では珍しいことになってしまったのではないだろうか。

学生の頃は、相手のことを頭に浮かべ、便せんを選び、封筒を選び、伝えたい想いをあれこれ巡らせて、頻繁に手紙を書いていた。今、そんなわたしの拙い手紙がひょんな所から出て来たとしたら、すぐさま処分をお願いしたいものだが、手紙は良くも悪くも受け手の心に思いは残るが、確実に形にも残る。

今回は、文具店を営むかたわら、祖母から引き継いだ手紙の代筆を請け負う代書屋さんのお話ツバキ文具店を紹介する。

鎌倉で代書屋を営む鳩子の元には、恋文、離婚の報告、絶縁状、天国からの手紙と風変わりな依頼が届く。そんな依頼に懸命に取り組みながら、鳩子は代書屋として成長していく。大切に想っているからこそ、伝わらない、伝えられない、そんなありがとうそしてごめんなさいを鳩子が依頼者に寄り添って、代わって、手紙をしたためる。それも文具店だけあってその依頼者に応じ、インクの色、便せんの紙質、封筒の色合い、切手のデザイン、文体、字体までもこだわるのだ。

この本を読むと、舞台となっている鎌倉を訪れたくなると同時に、言葉で伝えること、相手に寄り添うことの大切さを実感する。そして何より、引き出しの奥から便せんを取り出して、誰かに手紙を書きたくなるはずだ。

ということで、次回の読書バトンのテーマは「寄り添う」でいかが。

紹介した本 『ツバキ文具店』
小川糸／著 幻冬舎
2016年

紹介者 杏っこ

みなかべった

お正月の風物詩といえば、東京箱根間往復大学駅伝競走、通称箱根駅伝もそのひとつではないだろうか。

今回紹介する『タスキメシ』はそんな箱根駅伝出場を目指す高校生の物語だ。

大ケガが原因で競技から離れていた主人公の眞家早馬(まいえそうま)は、陸上を続けるか、それともやめてしまおうか悩んでいた。

ある日、同級生で料理研究部の井坂都(いさかみやこ)と出会い料理の世界に触れたことで、次第に現実を受け入れられるようになっていく。

ここで登場する料理が、どれも食欲をそそる献立なのだ。例えば「アスパラと里芋と豚肉の照り焼き炒め」。アスパラは瑞々しさと独特な青臭さ、ほろ苦さがある。フライパンに豚肉を入れたときの油の跳ねる音や、タレで豚肉を炒めたときの香ばしい香り。甘辛タレに少量のワサビが入り、ピリリとした刺激があるのも食欲をそそる。そこにアスパラと里芋が入る。里芋の柔らかくねっとりした味、そして甘辛いタレの絡んだ照りのある豚肉が白飯に合うだろう。音や香り、見た目、五感から美味しさが伝わってくるようだ。何度も繰り返し家で作りたい料理だと思った。この中で早馬は畑で緑の列を作って生えているアスパラを、上空から見た長距離走者に仮定する。鎌で1本ずつ刈りとられる様が、まるで最後尾からどんどん脱落していく走者のようだと想像してしまうのが切ない。

さて、物語は次々と登場する料理と並走するように展開し、ラストに向かうにつれどんどん引き込まれる。登場人物それぞれの交錯する想い。そして、早馬はついに決断する。

「ご飯が楽しみなら俺は大丈夫だ」という早馬のセリフが印象に残る。

紹介した本 『タスキメシ』
額賀澪／著
小学館 2015年

ちょっとつよいクラシック

皆さんは気分を上げようとする時、何をしますか？美味しいものを食べたり、ちょっと遠出をしたり、奮発して欲しかった高額な物を買ったり。色々な方法があると思いますが、私はずばり！音楽を聴くことです！いつも仕事に向かう時は、「今日も一日頑張ろう！」と音楽を聴きながら自分を鼓舞しています。

今回は、私の最近のお気に入りCD『ちょっとつよいクラシック』を紹介します。

このCDは、ピアニストの「まらしぃ」がクラシックの名曲をアレンジして弾いているアルバムです。収録されている曲名も「ちょっとつよいカノン」「ちょっとつよいエリーゼのために」などなど。アルバム名の通り不思議な名前になっていますが、聴いてみると元々のクラシック曲より、確かにちょっとつよい。単純に弾き方を強くしているのではなく、勢いがある曲調になっています。

ダダダダーン！というフレーズで有名なベートーヴェンの「運命」も、全部聴こうとすると30分以上と1曲が意外に長いクラシックの曲が、どれも有名なフレーズを中心に5分以内になるように大胆にアレンジされています。

ボーナストラックも含めて全部で13曲収録されていますが、どの曲も楽しくノリが良いので、気分を上げるにはオススメの1枚です。どんなアレンジになっているのか、是非アルバムをお聴きください。

まわれ！エンバン円盤

紹介したCD
『ちょっとつよいクラシック』
marasy／ピアノ
Subcul-rise Record 2019年

リスあるある

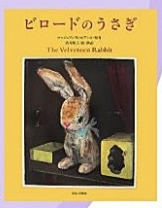
わたしのすきなえほん

母に言わせると「あっという間に絵本を卒業」してしまった私は、大人になって図書館で働くようになってからようやく色々な絵本を読み漁るようになりました。

その中でも大好きになったのが『ビロードのうさぎ』です。タイトルを聞いただけで手触りの良さが感じられる、小さなぼうやにクリスマスプレゼントとして渡されたぬいぐるみのうさぎの物語です。

寝る時も庭で遊ぶ時もビロードのうさぎを手離さないぼうやをみながら、自分が子どものころにおもちゃの指輪やおまけの人形がどんなに大事だったか、いっしょに出かけてどれだけ冒険を楽しんだかを思い出して懐かしくなり、今はそれを失くしてしまった切なさを読むたびに思い出します。そして、酒井駒子さんの温かい絵と優しい抄訳からうさぎの"ほんもの"への憧れが伝わり、大人が読むといっそう心に染みてくると思います。

子どもの頃の楽しさと大人になってからの懐かしさを感じられる絵本です。



紹介した本 『ビロードのうさぎ』
マージェリィ・W.ビアンコ／原作
酒井駒子／絵・抄訳
ブロンズ新社 2007年

キャラもえ

一口に「萌え」といっても色々あります。その中でも"ギャップ萌え"は特に強く印象に残ると思います。そのキャラクターの容姿や性格からはイメージできないような行動や言動に驚かされた経験がある方も多いのではないでしょうか。

私にも"ギャップ萌え"を強く感じ、好きになったキャラクターがいます。それは『お探し物は図書室まで』に登場するベテラン司書の小町(こまち)さゆりさんです。彼女は図書室の奥の方にあるレファレンスカウンターにいる、とにかく大きな女性です。髪は小さなお団子に結っていて、花の飾りがついたかんざしを挿しています。全体的に白くふんわりした雰囲気で、いつも羊毛フェルトで何かを作っています。そして、誰かが探しもので訪ねてくると「何かお探し？」と穏やかな声色で静かに問いかけるのです。登場人物たちはそれぞれ仕事や生き方など悩みを抱えています。小町さんは話を聞きながら、ときには励まし、ときにはそっと背中を押し、まるでお母さんのような温かさで包み込んでくれます。そして話が一段落すると突然、仕事モードに入ります。恐ろしく早く激しいキーボードさばきでおすすめの本の情報をプリントしてくれるのです。登場人物たちはみな、その迫力に驚きを隠せません。

小町さんは母のような優しさと、人としての柔らかさがとても魅力的です。気迫あふれる仕事人モードのタイピングの速さとのギャップに度肝を抜かれましたが、同じ司書の仕事をしている者として純粋に憧れもあります。他にも好きな漫画について語る熱さや、お菓子が好きでついはしゃいでしまう無邪気さなど、1冊の本の中で小町さんという人を十分イメージできるほど魅力が語られています。

登場人物たちのために小町さんがどのような本をすすめるのか、それによって彼らがどんな答えにたどり着くのか。是非、手に取って確かめてみてください。

紹介した本
『お探し物は図書室まで』
青山美智子／著 ポプラ社 2020年

大宮図書館 ホームページ

大宮図書館 X（旧Twitter）

X(旧twitter)ではイベントやスタディーコーナーの待ち人数など大宮図書館の情報を日々つぶやいています。ぜひ、フォローしてみてくださいね！

この刊行物の書影画像はBOOKデータASPから引用しています。